

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな えひめけんりつうわじまみなみちゅうとうきょういくがっこう	②所在都道府県	愛媛県					
27～31	①学校名 愛媛県立宇和島南中等教育学校							
③対象学科名	④対象とする生徒数						⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	県立中等教育学校 1学年4クラス 定員160名 教職員87名
中等(前期課程)	160	160	157				477	
中等(後期)普通科				162	155	158	475	
⑥研究開発構想名	宇和島のうみ・やまから世界を考える							
⑦研究開発の概要	SGアクションとグローバル・スキルを効果的に融合させ、国際人としてのコミュニケーション力を高めるとともに、自ら疑問を抱き、考え、判断・行動し、社会問題を解決することができるグローバル・リーダー教育の研究・開発を、生徒全員を対象に実施する。							
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>ローカルに対する理解と愛郷心を基盤として、地域の課題を解決し、グローバル化していく世界の中で地域の持続的発展のために実践的な行動の取れるリーダーと、探究活動から得た知識、技能、実践力により、自ら考え、判断・行動し、グローバル社会の課題を解決することのできるグローバル・リーダーを育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>ア 現状の分析</p> <p>中等教育学校として10年が経ち、進学校としての一定の評価は得ている。勤勉、真面目で何事にも一生懸命に取り組む生徒が多い。しかしながら、流動的で変化の速い、正解の見えないグローバル化の進行する現代社会において、グローバル・リーダーとして活躍できる人材がどれほど育っているかは未知数である。</p> <p>イ 研究開発の仮説</p> <p>そのような学校の現状、生徒の意識を変え、備わっている資質を生かし、更に発展させるためにSGH事業は有効であると考え。SGHを導入することにより、地域の実態への理解と世界の現状に対する興味・関心を持ち、世界をフィールドに生きていく意志と意欲を育成することが期待できる。具体的には、世界的な視点で物事を考えるSGアクションと国際人としての行動の基礎となるグローバル・スキルを一体的に運用することにより、自ら考え、自ら行動することができるようになると考えられる。</p> <p>開発したい力 (SGアクション)</p> <p>(ア) ローカルに対する理解と愛情 (イ) グローバルな視点からのローカルの俯瞰 (ウ) 異文化理解力・共感力 (エ) チャレンジ精神・困難に耐える力 (オ) 世界に売り込む企画立案力・交渉力 (カ) 論理的思考力・分析力</p> <p>開発したい力 (グローバル・スキル)</p> <p>(ア) 英語学習に対する積極性 (イ) 世界に通用する語学力・表現力 (ウ) グローバル社会への発信力</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>ア 一般市民対象の成果発表会を実施する。 イ 学校ホームページに掲載するとともに、小学生体験入学で児童とその保護者に実践報告と研究成果を発表する。 ウ 英語版ホームページを拡充し、海外及び海外提携校へ発信する。 エ SSH校と合同で行う「愛媛スーパーハイスクールコンソーシアム」で研究</p>						

	<p>成果を発表する。</p> <p>オ 宇和島市内3校によるグローバル・ミーティングで成果発表を行う。</p> <p>カ 愛媛県高等学校教育研究大会及び各教科部会において成果発表を行う。</p> <p>キ 各ステージでの研究成果を全校集会で発表する。</p> <p>ク 結果報告書を作成し、他校への配布を行う。</p> <p>ケ 地元CATVなどマスコミの協力を得て、成果発表会の様子を放映する。</p>
⑧-2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容          大学、行政、地元企業との連携の下、地域の基幹産業である農業・水産業について研究する。地元宇和島の農業・水産業の現状を学び、地元産品を海外へ輸出する際の問題点を理解するとともにその解決方法を考え、新たな世界市場への販売戦略を提案する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価          ア SGアクションにおいて、地元企業や大学での研修等を実施するとともにグローバルな問題をテーマとした講演会を実施する。          イ 海外展開する地元企業や愛媛県の「愛のくにえひめ営業本部」を通じて、東南アジア等の海外の現状を視察し、農業・水産業の海外展開のためのアイデアを持ち帰り、以後の研究につなげていく。          ウ 県教育委員会が主催し、SGH指定校及びSSH指定校が合同で成果発表を行う「愛媛スーパーハイスクールコンソーシアム」に参加する。          エ 研究開発の目的の達成状況を、レポートやアンケート調査等を通して検証評価する。          オ 運営指導委員会による評価を実施する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等          ア 中等4年生は、「社会と情報」を1単位減じるとともに、「総合的な学習の時間」を履修せず、その内容を学校設定科目「SGアクションⅠ」（2単位）で代替する。          イ 中等5年スーパーグローバル類型生徒は、「保健」「総合的な学習の時間」を履修せず、その内容を学校設定科目「SGアクションⅡ」（2単位）で代替する。人文総合・自然科学類型生徒は、「総合的な学習の時間」を履修せず、「SGアクションⅡ」（1単位）で代替する。          ウ 中等6年生は、学校設定科目「総合的な学習の時間」を履修せず、「SGアクションⅢ」（1単位）で代替する。</p>
⑧-3 上記以外	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価          ア グローバル社会で活躍する国際人として求められる、知的創造の技術や表現力・英語でのコミュニケーション力等の育成を図ることを目標とした、学校設定科目グローバル・スキルⅠ・Ⅱを実施する。          イ 研究開発の目的の達成状況を、校外コンテストに参加した人数や各種英語検定の合格者数等で検証評価する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等          ア 第4学年の全生徒は、「コミュニケーション英語Ⅰ」を1単位減じて、「グローバル・スキルⅠ」（1単位）を履修する。          イ 第5学年のスーパーグローバル類型は、「コミュニケーション英語Ⅱ」を1単位減じて、「グローバル・スキルⅡ」（1単位）を履修する。          ウ 第6学年のスーパーグローバル文科系類型は、「グローバル・スキルⅢ」（3単位）を「数学研究Ⅱ」（3単位）との選択で履修し、スーパーグローバル理科系類型は、「グローバル・スキルⅢ」（2単位）を「地理」（2単位）との選択で履修する。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法          ア 国際交流室で、海外にある提携校や大学の研究室とテレビ会議システムを通じて交流する。          イ 修学旅行でオーストラリアを訪問し、現地の人々や企業との交流により、異文化体験や英語を活用した研修を実施する。</p>
⑨その他 特記事項	特記事項なし